

2012.2.4



# 生誕150年 20世紀音楽の 窓を開けた巨人 ドビュッシー 第1回



## プログラム

今年フランスの生んだ大作曲家ドビュッシーの生誕150年に当たります。ドビュッシーはそれまでの長調、短調という調性的な和声法から抜け出し、もっと自由でさまざまな旋法を駆使した独自の世界を作り上げました。それは20世紀音楽の窓がドビュッシーの手によって開けられたと言っても良いでしょう。その代表的傑作が「牧神の午後への前奏曲」です。マラルメの詩に基づいて書かれたこの作品によって印象主義という手法を確立、音楽史上に深く刻まれることになりました。1980年に第1楽章、1982年に第2～第4楽章が発見されて日の目を見たピアノ三重奏曲は18歳の時の作品。すでにドビュッシーらしい瑞々しくメランコリックな美しさが際立った佳曲です。ピアノ曲では、子供が弾くための曲ではなく、大人から見た子供の世界を見事な手法で綴った傑作「子供の領分」。2つのアラバスクはロマン派の影響が残るものの洗練された美しさと独特の和声法はドビュッシーの世界。イタリアのベルガモ地方から由来していると言われる「ベルガマスク組曲」からは前奏曲と教会旋法を使ってこの上ない美しさを生み出した珠玉の名曲「月の光」。珍しいハーブ伴奏による歌曲を3曲。そして22歳の時に2台のピアノと女性合唱のために書かれ、その後ビュッセルによってオーケストラ化された交響組曲「春」はボッティチェリの名画「春」にインスピレーションを得たと言われる若々しい感性に溢れた作品です。3回シリーズの第1回は、初期の作品を中心に聴きいただきます。ドビュッシーの世界へようこそ。

\*\*\*\*\*

### クロード・ドビュッシー (1862~1918):

#### 牧神の午後への前奏曲

ジャン・フルネ指揮 チェコ・フィルハーモニー管弦楽団  
(2003.11.29 サントリーホールでのLive)

#### 組曲 “子供の領分”

1. クラドゥス・アド・パルナツスム博士
2. 象の子守歌
3. 人形へのセレナード
4. 雪は踊る
5. 小さな羊飼
6. ゴリヴォークのケークウォーク

イヴァン・モラヴェッツ (ピアノ)

(1993.5.4 サルツブルク、モーツアルテウムでのLive)

#### ピアノ三重奏曲ト長調

パスカル・ロジエ (ピアノ) / 小林美恵 (ヴァイオリン) / 長谷川陽子 (チェロ)  
(2001.11.25 紀尾井ホールでのLive)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

### クロード・ドビュッシー (1862~1918):

#### 歌曲 “星の輝く夜” / “美しい夕暮れ” / “まぼろし”

ディアナ・ダムラウ (ソプラノ) / グザヴィエ・ドウ・メストレ (ハーブ)  
(2009.1.27 バーデン・バーデン祝祭劇場でのLive)

#### アラバスク第1番ホ長調 / 第2番ト長調

モーラ・リンパニー (ピアノ)

(1993年録音 EMI盤)

#### ベルガマスク組曲～

##### 第1曲 前奏曲 / 第3曲 月の光

モーラ・リンパニー (ピアノ)

(1993年録音 EMI盤 / 1993.10.24 サントリーホールでのLive)

#### 交響組曲 “春”

ガリー・ベルティーニ指揮 ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団  
(1984.9.8 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)